

仙石線思い出踏切



宮城野原案内人の会



撮影：庄子善隆氏 1976年

仙台駅に着いた電車の写真です。表紙の見返しに載せました。私事ですが、生家のある石巻と母の実家のある仙台市を往復する際に仙石線に乗っていた幼児の頃からの思い出深い風景に、踏切ではないのに思わず採用してしまいました。安井

踏切の冊子発行

--***-***-***-***-***-***-***-***

発行日 令和7年3月31日（2025）

発行者 「宮城野原案内人の会」 会長 山田孝子

事務局 星 義男 090-2883-9669

写真 『仙石線旧線漫歩』 庄子喜隆 2014より転載

写真中撮影者不記載のものは発行者撮影

編集 宮城野原案内人の会・冊子作成実行委員会

（山田孝子・菅野光男・佐藤きよみ

原田良一・星義男・吉田勇）

--***-***-***-***-***-***-***-***

※本出版事業は公益財団法人仙台観光国際協会様令和6年度
仙台市観光ボランティアガイド活動促進事業の助成金、及び
阿部和建築文化研究所様の研究助成金を、活用させていただきました。

仙台市と石巻市を結ぶJR仙石線は、開業から年2025年6月5日で100年目を迎えました。あおば通駅と石巻駅を結び、全長49kmなのに駅の数32も有ります。

仙台市宮城野区の市街地を走り抜ける線路には、14カ所もの踏切があり、朝夕の交通渋滞は激しいものでした。そこで、1985年から地下化する大規模工事がおこなわれ、2000年に完成すると14カ所の踏切は消えたのです。

阿部和建築文化研究所が数年前から宮城野区原町本通りに関するイベントを共催している「宮城野原案内人の会」の会長山田孝子氏は、思い出深い踏切の記憶を残すことを強く希望し、仙台市に働きかけました。たくさんの方々の賛同を得て、表紙写真にあるように銘板が各踏切跡に設置されたのです。私は市民の一人として、予算を確保して要望を実現してくれた仙台市に「あんたはエライ！」と言ってあげたい気持ちです。

冊子作製に当たり、当研究所は、「宮城野原案内人の会」の趣旨に賛同し、銘板写真撮影や編集、デザインの部分にかかわりました。上記「奥付」参照

6月4日の発行記念イベントには来賓として、畏れ多くも宮城野区長と共に臨席しました。冊子発行はマスコミにも取り上げられ、一般参加者は定員を大幅に上回る53名でした。

文責：阿部和建築文化研究所主幹研究員安井妙子